

急性リンパ球性白血病 について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
急性リンパ球性白血病	<p>◇症状及び治療法</p> <p>急性リンパ球性白血病（ALL）はあらゆる年齢層で発症しますが、小児のがんとして最も多く、15歳未満の小児がんの25%を占めます。2～5歳の年少児に特に多くみられる。</p> <p>化学療法は効果が高い治療法で、いくつかの段階に分けて行われる。最初の治療（寛解導入療法）では、白血球を破壊して骨髄中で再び正常な細胞が成長できるようにすることで、寛解へと導く。骨髄が回復する速さによって、数日から数週間の入院が必要。貧血の治療と出血の予防用に血液と血小板を輸血し、感染の治療には抗生物質が必要になる。尿酸など、白血球が破壊されたときに放出される有害な物質を除去するため、輸液の点滴とアロプリノールによる薬物療法も行われる。</p> <p>最初の集中治療から2～3週間後に、残りの白血病細胞を破壊するための追加治療（地固め化学療法）を行う。薬剤を追加するか、最初の治療と同じ組み合わせで、数週間にわたって数回の投与を行う。この後さらに、薬の種類や用量を減らした維持化学療法を2～3年続けることもある。特定の染色体変異があるために再発のリスクが高い場合は、最初の寛解期間に幹細胞移植を行うことが勧められる。</p> <p>（メルクマニュアル家庭版より）</p>	<p>財団法人 骨髄移植推進財団（日本骨髄バンク）</p> <p>http://www.jmdp.or.jp/ 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 http://www.marrow.or.jp/</p>